

# いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

## 「今在る自分を力いっぱい生きる」

(道徳の時間)

射水市立放生津小学校 5～6 学年児童  
平成 22 年 9 月 29 日実施

## 【いのちの先生】

松下 真由美先生

・スクールサポーター

### 【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話
  - (1) あらちゃんについて
  - (2) あらちゃんを通しての新しい出会いと喜び
  - (3) 詩「今日からはじまる」の朗読
  - (4) 質疑応答
- 3 感想記入

松下さんは、あらちゃん（重度障害をもって生まれてきた息子さん）の障害を前向きにとらえることができるようになり、家族で明るく生きてこられた。そして、あらちゃんが亡くなった今、あらちゃんが残してくれた出会いや喜びを大切にしながら生きている松下さんの姿に、児童は人としての強さを感じていた。

「今日からはじまる」の詩は、「今在る自分を力いっぱい生きよう」という松下さんからの児童へのメッセージであった。

家族へ

あらちゃんは、生まれた  
ときから障害があったので  
入院したり退院したりを繰  
り返していました。

ぼくたちがしている、食  
べる、立つ、すわるといっ  
たことは、あたり前ではな  
いことが、わか  
りました。



イラスト「心のノート」より

〇〇へ

あなたは家族、友人などに  
ささえられて生きています。  
決して一人じゃない。

周りの人も自分も大事に  
して生きてください。そうす  
れば、辛いことがあっても、  
きつとのりこえられるはずで  
す。あなたが生き  
ていることが、家  
族の幸せです。



イラスト「心のノート」より

### 児童の感想（6年生児童）

今日、いのちの授業があり、お話を聞いてぼくが感じたことは、ぼくたちはすごい力をもっているということです。例えば、蛇口をひねる力、水だと感じ取る力、そして、水をすくう力、すくった水を飲む力です。

重い障害をもった人たちには、ぼくたちがあたり前だと思っていることでもとても難しいことなのです。だから、ぼくたちはすごい力をもっているのだと思いました。ぼくたちはその力をせいっぱい使わなければいけないと思いました。

### 児童の感想（5年生児童）

いのちの授業で、松下先生のお話を聞いて、生きたいけれども生きられないという人が世界にはたくさんいることに気づきました。

今、歩いていること、勉強していること、字を書いていること。自分はこれまであたり前のことだと思っていましたが、あたり前のことではないことが分かりました。